

ス. イカナゴ資源生態調査

調査方法

1. 仔魚分布調査

1) 調査実施日

第1回調査：2006年1月10、11日

第2回調査：2006年1月24、25日

第3回調査：2006年1月31日、2月1日

2) 方法

ボンゴネットによる湾内12点での往復傾斜曳き採集

2. 漁獲物測定調査

1) 調査実施日

2006年3月1日～4月22日

2) 方法

中部地区の岸和田市漁協と南部地区の深日漁協において、漁期間中の漁獲物を原則として1週間に1回以上の頻度で採取し、100尾について全長を測定した。

調査結果

1. 仔魚分布調査

調査の結果をもとに、2006年2月9日に発表した「イカナゴしんこ漁況予報（平成18年）」を「資料1」として示す。

2. 漁獲物測定調査

測定結果を表1に示す。

担当者

日下部敬之、大美博昭、中嶋昌紀

表1 イカナゴ漁獲物測定調査結果

漁協名	平均全長(mm)	標本標準偏差
2006/3/1 深日	24.2	5.47
2006/3/1 岸和田市	26.9	5.67
2006/3/4 深日	23.5	5.63
2006/3/4 岸和田市	22.0	5.94
2006/3/6 深日	24.7	6.78
2006/3/9 岸和田市	22.8	6.22
2006/3/10 深日	22.5	6.61
2006/3/11 深日	28.0	7.37
2006/3/14 深日	29.8	6.07
2006/3/14 岸和田市	28.0	7.95
2006/3/15 深日	30.5	7.08
2006/3/18 深日	28.6	6.75
2006/3/20 岸和田市	30.4	7.37
2006/3/20 深日	30.8	7.32
2006/3/24 深日	27.7	5.38
2006/3/25 深日	29.9	6.25
2006/3/25 深日	43.9	8.48
2006/3/28 岸和田市	32.4	6.16
2006/4/1 岸和田市	41.8	7.69
2006/4/1 深日	54.8	9.80
2006/4/6 岸和田市	45.6	8.70
2006/4/14 岸和田市	39.0	6.57
2006/4/17 岸和田市	64.4	5.72
2006/4/22 岸和田市	58.5	10.52

各サンプルとも100尾を測定。

資料 1

イカナゴしんこ漁況予報（平成18年）

平成18年2月9日
大阪府立水産試験場

◎水温（図1）

水温の高低は、イカナゴ親魚の産卵時期（水温低下が産卵の引き金となる）や、ふ化した仔魚の成長（水温が高い方が成長が速い）、生き残り率（低水温の方が良い）などに影響を与える。今期の水温は、12月初めから訪れた寒波のせいで平年よりかなり早く低下した。1月以降も例年になく寒い冬が続き、2月上旬現在の水温は、平年を大きく下回っている。気象予報によれば、2月の気温は平年並みまたは高めと予想されているが、現在の水温の低さから考えて、今後しばらくは平年より低めの水温が続くものと考えられる。

◎季節風（図2）

季節風（特に西風成分）は、播磨灘から大阪湾に向かう海流を強め、イカナゴ仔魚の大阪湾への流入量を増大させる。また、仔魚の散らばりを促進することによって、生き残りにプラスに働く。今期の西風は、12月中は平年を上回ったが、1月上旬は平年並みであった。1月中旬から下旬にかけては、北風は比較的良好に吹いたものの、西風は平年値を下回った。

◎産卵量および産卵期

兵庫県水産技術センターは、大阪湾で漁獲されるイカナゴのおもな産卵場である、播磨灘ノ瀬海域で産卵親魚の調査を行なっている。その結果によると、今期のノ瀬海域での総産卵量は比較的多く、昨年（例年に比べて少なかった）を1とすると約5.9であったと推定されている。一方、今期は12月の水温低下が早かったため、産卵期も昨シーズンより早まり、その盛期は12月20～25日頃であったと考えられる。

◎仔魚の出現状況（図3、4）

今期も、大阪湾内に設けた12の調査点において、プランクトンネットによるイカナゴ仔魚採集調査を3回実施した。

1月10、11日に行なった第1回調査では、明石海峡部近くの2つの点で非常に多くの仔魚が採集された。しかし、それ以外の点では採集数が少なく、まだ湾全体への分散は進んでいなかった。採集された仔魚は、ほとんどがふ化後間もない小さなサイズのものであった。

第2回調査は1月24、25日に行なったが、近年の採集数を大きく上回る数の仔魚が出現し、湾内の分散状況も良好であった。この時点での平均全長は5.6mmであった。

1月31日、2月1日に実施した第3回調査でも、多くの仔魚が採集された。仔魚数

は1点あたり平均666尾で、第2回調査に引き続いて、近年の同時期調査の中で最も多い出現数であった。分散状況も前回調査に引き続いて良好であった。仔魚の平均全長は6.1mmであったが、全長組成から判断すると、海の中での主群の全長は12mm前後になっているものと考えられた。

◎イカナゴしんこの漁況見通し

以上のように、今期はふ化以降の西風条件はあまり良くないものの、産卵量や水温の面では好条件であり、現在のところ多くの仔魚が出現している。これらのことから総合的に判断して、今年のイカナゴ漁開始時におけるしんこの資源量は、昨年および近年の平均的水準を上回るであろうと予測される。なお、2月下旬～3月上旬時点でのしんこの大きさは、昨年と同程度か、わずかに大きいであろう。

図1 大阪湾口部の水温変化

水試前、午前9時の底上1.75m

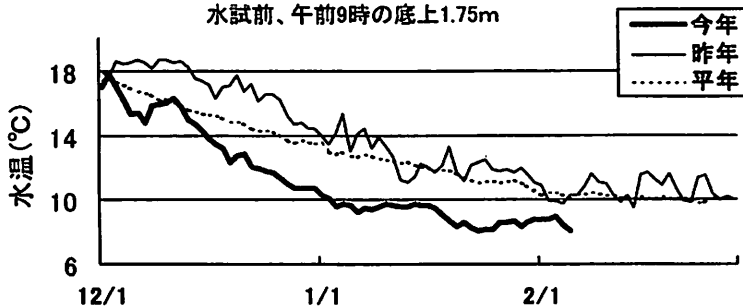


図2 西風成分の平年偏差

水試定置観測、旬平均値

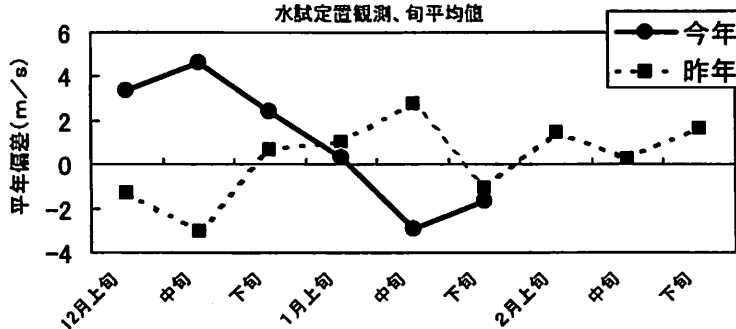
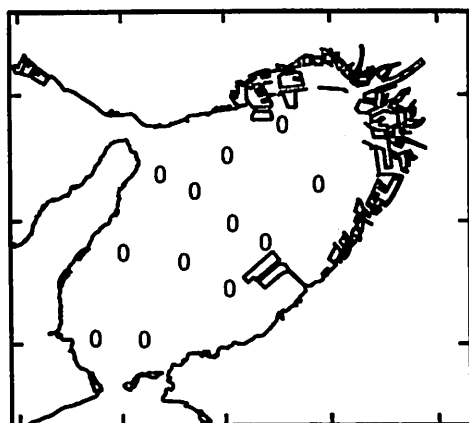
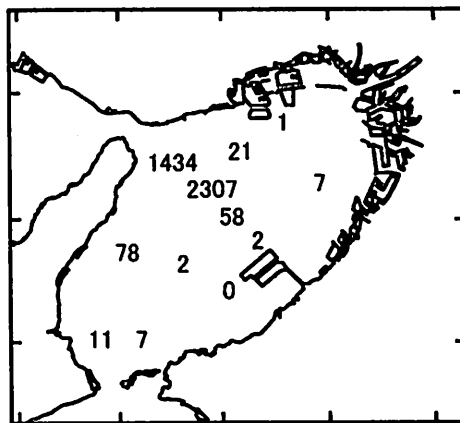


図3 イカナゴ仔魚の採集数

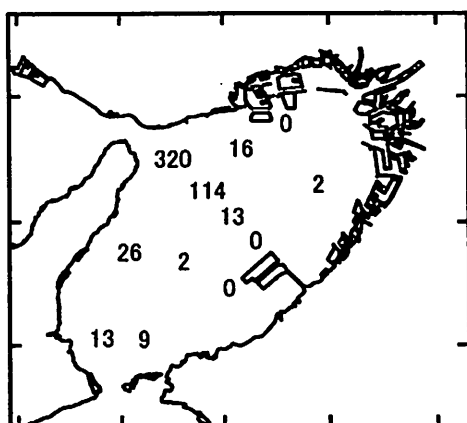
ボンゴネット斜め曳きによる、面積1平方mの水柱あたりの尾数。



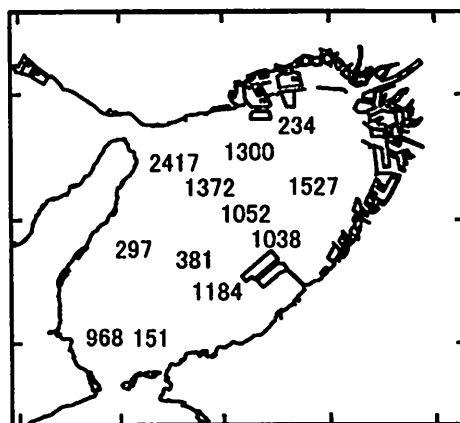
昨年1月6,7日 仔魚は採集されず。



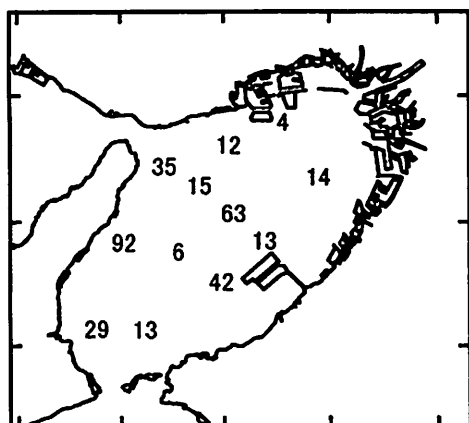
今年1月10,11日 平均全長 3.9mm



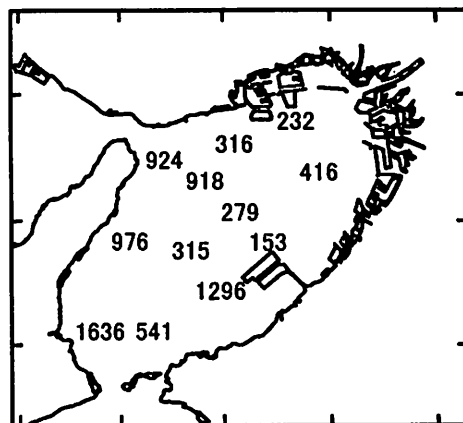
昨年1月18,19日 平均全長 4.1mm



今年1月24,25日 平均全長 5.6mm



昨年2月7,8日 平均全長 7.9mm



今年1月31日,2月1日 平均全長 6.1mm

図4 昨年と今年のイカナゴ仔魚全長組成の比較

